

府中市市民協働推進シンポジウム



1 開催概要

□日時：平成27年1月24日（土）12時30分～15時45分

□場所：ルミエール府中コンベンションホール飛鳥、第1・2会議室

□主催：府中市、特定非営利活動法人府中市民活動支援センター

□協力：府中市自治会連合会

□プログラム：

(1) 開会・主催者あいさつ

高野 律雄（府中市長）

(2) 分科会

第1分科会 「公園の魅力を考える：みんなにとって必要なこと、出来ること」

コーディネーター：山ノ内 凜太郎 氏（一般社団法人ISP 代表理事）

第2分科会 「防災で見直すまち：避難所運営ゲーム（HUG）シミュレーションで自分たちのまちを見直そう」

コーディネーター：富沢 木実 氏（田無スマイル大学実行委員会代表）

(3) まとめの会

コーディネーター：朝岡 幸彦 氏

（東京農工大学大学院農学研究院・教授）

(4) 閉会

2 シンポジウム要旨

■プログラム(1)開会・主催者あいさつ。

高野 律雄(府中市長)

本日は、「市民協働推進シンポジウム『聞いて、話して、考える、これからの府中』」に、大勢の皆様にご参加いただき、心から厚く御礼申し上げます。

「市民協働」については、これからのまちの発展を考えるにあたり、改めて市民の皆様と意識や情報を共有し、共に考え、共に歩む必要があると思っています。

本市は平成25年度4月に「市民協働推進本部」を立ち上げました。行政の組織は福祉、教育、環境、都市計画など、それぞれ専門の分野を縦の組織で担当するなど、どうしても縦割りになる傾向があります。そのため、横断的につながり強い基盤を持った組織が必要ということから本部を立ち上げました。平成26年度からは、目指す都市像を「みんなで創る笑顔あふれる住みよいまち」と掲げ、協働を柱とした第6次府中市総合計画がスタートしたところです。そして、市民の皆様を交えた「市民協働推進協議会」における議論を経て「府中市市民協働の推進に関する基本方針」を5月に策定し、10月19日に実施した市制施行60周年記念メイン事業の「喜びの集い」の中で、市民の皆様とともに「市民協働都市宣言」を実施しました。

「協働」という概念は決して新しいものではなく、少し前までは協働がなければ糧を得ることができないといった時代が多かったのですが、技術の進歩や都市化が急速に進み、個人情報取扱いなども難しくなったことから、コミュニティの希薄化が非常に問題視されています。

今年は戦後70年、阪神淡路大震災から20年、また東日本大震災から4年になります。震災発生時は危機感を感じて様々なことを考えますが、時が経つと忘れてしまうことが多いため、平和や安全は当たり前のものではないということを、今年は改めて気付かなければならず、皆様との絆のさらなる発展が必要であると認識しています。

平成27年の市政運営方針のキーワードは「やすらぎ・つながり・かがやき」としました。「やすらぎ」とは、健康で安全に暮らすことで、「つながり」は、本日皆様「聞いて、話して、考える」ことの中から生まれるでしょう。そして「かがやき」は、市民の皆様がお互いに聞きあい、話し合うことにより、お互いの心の距離が近くなり次の行動が生まれることを期待する、それが皆様のかげやきとまちのかげやきになると認識しています。

本日は、おそらくあっという間に時間が過ぎていくと思います。ぜひ皆様方の熱い議論を心から期待申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

■プログラム(2) 分科会

- 第1分科会「公園の魅力を考える：みんなにとって必要なこと、出来ること」
コーディネーター：山ノ内 凜太郎 氏（一般社団法人ISP 代表理事）

□ 府中市の公園について（司会からの説明）

第1分科会のテーマである「公園」について、「公園とはそもそもどういうものなのか」「府中市の公園はどうなっているのか」「市民と公園の関係はどうなっているか」という3点についてお話しします。

まず、「公園とはそもそもどういうものなのか」について。日本の公園には大きく分けて、国立公園に代表される景観保全を目的とした「地域制公園」と、自治体などが所有し、目的にあった運営・管理を行う「営造物公園」があります。営造物公園の多くは都市公園法で定める都市公園であり、その役割には大きく分けて、「良好な都市環境の提供」「都市の安全性を向上し、地震などの災害から守る」「市民活動・憩いの場の形成」「豊かな地域づくりや地域の活性化」の4つがあります。

次に、「府中市の公園はどうなっているのか」について。府中市の公園の管理は公園緑地課が行っており、市内には全352か所もの市立公園があります。特に、半径250メートル以内にある身近な公園は215か所あります。公園には様々な名称がついており、多くの市民を対象とした府中公園に代表される「総合公園」や、「幼児公園・児童公園」、「緑道・緑地」、そして借地に作られた「広場公園」があります。また、道路整備の際に残った土地に作る公園で、府中市オリジナルの名称である「スポットパーク」もあります。このように、市立の公園はそれぞれの目的に応じ、地域の状況や意見を反映させています。

なお、市立公園は法律上、占有での使用はできませんが、仕事として写真撮影・映画撮影をする「フィルムコミッション」や、全部または一部独占して行う「競技会・展示会・集会その他類似の催し（ゲートボール、輪投げ、ターゲットバードゴルフ、集会、イベント、運動会、盆踊り、マラソンなど）」のように、申請によって可能な場合があります。また、公園で禁止されていることとしては、「施設の破損」「竹木の伐採、植物・土石の採取」「営利目的の物品販売・頒布」「広告宣伝」「他人に迷惑が及ぶ行為」などがあります。

最後に、「市民と公園の関係はどうなっているか」について。市民と公園が関わっている事例をいくつか紹介します。

1つ目は環境政策課が行っている「市民花壇」で、自治会・町内会をはじめ多くの市民が参加しています。具体的には、公園などの公共地において市民参加による花壇づくりを進めることにより、まちに潤いと安らぎのある生活環境を作り出すため、登録した市民団体・グループに市が草花の苗を提供

するものです。現在、府中市には39か所の市民花壇があり、春・夏の年に2回、苗の提供があります。2つ目は、「四谷下堰緑地保全活動」です。ここは以前、一時不法投棄や管理の手が回らず荒れた状態になっていた彼岸花の咲く緑地でしたが、行政や地域住民、NPO 団体が一緒になって自然環境を改善し、今では新しく地域に「下堰緑地の会」という保全活動する会ができています。

□ ワークショップの目的とスケジュールについて（コーディネーターからの説明）

まずは分科会終了後のゴールを共有したいと思います。本日のゴールは「自分たち市民のアイデアが、まちを面白くする力がある」と感じていただくことです。

様々な面白いアイデアが出る「場」を作るためにまず必要なのが、「アイスブレイク」です。この場には、目に見えない緊張や不安があります。まずは、それらを壊すためのワークを行い、安心・安全のコミュニケーションのためのこの場限りのグラウンドルールを共有した上で、ワールドカフェを進めていきます。

□ アイスブレイク（自己紹介）

- A4 の紙を1枚ずつ取り、4つに折る。
その紙を開き、左上に自分の名前、右上に府中のお勧め野外ポイント、左下に住んでいる所と、右下に本日の意気込みを記入する。
- グループの中で1月25日に誕生日が最も近い方を見つけ、その人から一人1分間で自己紹介をする。
- 次に、テーブルを立ち、3分間でできるだけ多くの人と自己紹介をする。



□ グラウンドルールの共有

- ～ルール1～ 話したい、そういった気持ちを大切にしましょう
- ～ルール2～ みんなの個性を楽しみましょう
- ～ルール3～ みんながみんなと楽しくしゃべれる場にしましょう
- 世代や立場やこれまでの経験など、全く異なる人が集まっているので、ここだけは守りましょうという共通のルールができると、心地よく話し合いができる。
- グループ内で結論を出す必要はない。

□ ワールドカフェ

- 提示された「問い」について、各グループで話をする。一定時間が経過したら一人をテーブルに残し、それ以外の人とは別のテーブルに移動する。これを何度か繰り返して、最後に全体を振り返る。このように、テーブルを移動するたびに他のテーブルで話した情報などを共有しながら、多くの人のアイデアを聞くことができる。
- 1テーブル4～5人がポイント。6人以上になると自分はしゃべらなくてもよいのではと思ってしまうが、4～5人だと自分がここで発言することにより何かが変わると思うことができる。
- 机の上の模造紙を自由に使い、話をしながら自分の意見や他の人の意見で良かったもの、気付いたことなどを記入し、参加者がそれぞれのテーブルにいた足跡を残す。最終的に、各テーブルの模造紙が、様々なアイデアで埋め尽くされる。
- 第1ラウンド：「皆さんにとって公園はどんなところですか？」「どんな良いことがありますか？」
- 第2ラウンド：「公園はどうすればもっと良くなるのだろうか？」
- 第3ラウンド：「どんな協力があったら、理想が実現できるでしょうか？」
- ワールドカフェ終了後、話し合いを通して思ったことや気付いたこと、感想、公園への思いを自由に付せん書き、模造紙に貼る。



□ 参加者の感想・思い・気づきの発表（一部）

- 地域のために熱い大人がいることに感動した。
- 公園を減らす。（断捨離）
- 楽しいイベントがあったら良いと思う。
- 公園を使っている団体の紹介をする。
- 市役所任せにせず、自分たちでも手入れしている。手入れすると不審者も減る。
- 子どもが遊びたくなる公園を大人が作る。



□ 分科会のまとめ

本日皆様の心に残った全てが成果です。ここで生まれたアイデアや気づき、つながりを、ぜひ次につなげていってほしいと思います。

・第2分科会「防災で見直すまち：避難所運営ゲーム（HUG）シミュレーションで自分たちのまちを見直そう」

コーディネーター：富沢 木実 氏（田無スマイル大学実行委員会代表）

□ 府中市の防災の取組について（防災危機管理課職員からの説明）

まずは資料の「1 府中市に起こりうる被害（想定）」についてご説明します。府中市地域防災計画上で想定している地震は4種類あり、被害の想定もそれぞれ異なりますが、このうち、多摩直下地震と立川断層帯地震の二つでは、市内の最大震度を6強と想定しています。立川断層帯地震における建物の被害状況（想定）は、全壊棟数1,559棟、半壊棟数4,748棟、焼失棟数3,450棟（倒壊建物数を含む。）で、これらの影響により、避難者数が6万人（そのうち府中市が開設する避難所で生活をする避難生活者数はおよそ4万人）発生すると想定しています。府中市の人口が約25万人なので、約16%の方が避難所で生活することになります。このように、震度6強の地震が発生すると、建物の倒壊等により、避難所での生活を余儀なくされる方々がいるという状況をまずはご理解いただきたいと思えます。

次に、地震に備えるために市民の皆様をお願いしたいことが「2 強い揺れに備えよう！」です。地震大国日本に住んでいる限り、地震がないということはありません。私がいつもお話をさせていただく一番の地震対策は、「丈夫な家に住むこと」です。ただし、丈夫な家に住んでもどうしても揺れは生じるため、家具の転倒・移動防止をきちんと行ってください。

次に、「3 家庭内で備蓄をしておこう！（非常持出し品・家庭内備蓄）」です。実際に府中市で大地震が発生した場合、最初の72時間は救出・救助活動を行うことになることなどから、各自で最低3日間分の備蓄が必要です。府中市でもある程度の備蓄はしておりますが、25万人分の備蓄はなく、あくまで避難所生活者数の4万人分しかありません。そのため、各自の責任において最低3日分の備蓄をお願いします。

次に、「4 避難場所・避難経路・避難所を把握しておこう！」では、まず市民の方で非常に間違いが多い「避難場所」と「避難所」の違いについて説明します。「避難場所」とは、大地震による揺れや火災等から一時的に身を守るために避難する場所のことです。一方「避難所」は、大地震の揺れ等で自宅が倒壊・焼失等をしてしまい、生活する場所がなくなってしまった方が一定期間の生活を送る場所のことをいいます。つまり、避難場所は一時的に逃げこむための場所、避難所というのは生活を送るための場所という違いがあります。

なお、府中市では、避難場所を「地域避難場所」「指定避難場所」「広域避難場所」という3種類に、また、避難所を「一次避難所」「二次避難所」「福祉避難所」という3種類に区分けしています。中でも「一次避難所」は、自宅の倒

壊や焼失等により生活する場所がなくなってしまった方が一時的に生活を送るための施設のことを言い、府中市では、市立小中学校33校と郷土の森総合体育館の計34か所を指定しています。

最後に、「(2) 基本的な避難の順序」ですが、大地震が発生したらいきなり避難所に行くのではなく、まずは身の安全を図り、状況に応じて近くの避難場所に避難してください。万が一、避難した場所に火災等の危険が迫った場合は、他の避難場所へと避難します。そして、ある程度危険が収束したら、余震に注意しながらぜひ救出・救助活動を行っていただきたいと思います。そして、救助も一段落したら自宅へと戻り、被害状況を確認してください。自宅で生活することが可能な場合は自宅で生活を送り、倒壊や焼失等により生活できなくなってしまった場合は、遠慮なく一次避難所にお越しくください。

本日の避難所運営ゲームはこのような流れで、続々と避難所に人が集まってくるという状況で話が進むと思いますので、ご理解いただいた上でゲームにご参加いただければと思います。

□ 避難所運営ゲーム（HUG）について（コーディネーターからの説明）

避難所運営ゲーム（HUG）は、避難所で起こる様々な出来事を模擬体験するゲームです。テーブルごとに避難者の状況が書かれたカードを配り、避難所に見立てた体育館などの平面図にカードを配置しながら進めます。カードの中には、世帯番号と名前、住居の状況、家族構成、その他の状況が書いてあるので（今回は住んでいる地域は考慮しない）、それぞれ判断しながら教室や体育館にカードを配置してください。



□ ゲームの設定

- ・2014年12月18日（木）13時に、関東地方でマグニチュード8.0の直下型の大地震が発生。
- ・気温は7℃、天候は小雨。
- ・全ての公共交通機関はストップし、再開の見込みは立っていない。

- あなたは被災した場所から最寄りの避難所である小学校に避難してきた。
- あなたが避難所に到着したのは14時。今から21時までの間、避難してきたあなたは避難所の運営を始めなければならない。21時には「本来避難所運営を担うことになっていた組織」に運営を引き継ぐことになっている。
- 各学校にはそれぞれ子どもが待機しており、避難者は一部の施設のみ使用できる。
- 教職員たちは子どもを迎えに来てしまった保護者の対応などで手一杯。
- 学校にある筆記用具、テント大（2張）、バケツ、スコップは使用できる。
- 電気・ガス・水道・電話は使えない。
- 救護所の設置は翌日以降。

※意思決定の方法や運営体制などは決まっていないため、ゲームを進める中で、各チーム内で必要に応じて構築する。

※各チーム内で一人カードを読み上げながら配る人を決めて、カードを配置する。

※4分に一度、何らかの出来事が起こる。その都度、グループ内で話し合いながら対処していく。



□ グループごとの感想・気付いたことの発表

- 1チーム：モタモタしているとすぐに状況が変わるので、とにかく早く振り分けることが大変だった。
- 2チーム：実際の現場だったら押し寄せる人に困惑すると思った。また、見切り発車でいくと徐々に収集がつかなくなると分かったので、役割分担の重要性や受付の必要性が分かった。
- 3チーム：グループ分けをしながら即座に反応できるよう工夫する中で、受付の重要性に気付き、急遽テントを張った。また、インフルエンザの人をバスで隔離するなど、みんなのアイディアで乗り切った。
- 4チーム：一番大切なことは、どのような状況の人が来るか把握できないため、受付で分類をするということだと思った。
- 5チーム：市の職員として、有事の際にしっかりと判断し、動けるようにする必要性が分かり、大変勉強になった。
- 6チーム：余計なトラブルを避けるため、まずは体育館に避難者を収容し、その後教室等に振り分けた。避難所が満員になり、バスで避難してきた人に再度バスに戻ってもらうなど多少強引ではあったが、

このような気転も必要ではないかと思った。

- 7チーム：幸いなことに、グループ内で意見が分かれるなどのいざこざはなく、紳士的に話が進んだ。しかし、実際の状況ではちょっとしたことがトラブルにつながるため、冷静さが重要であると感じた。
- 8チーム：避難者の中に医者がいるなどの情報を記録しておき、協力をお願いするなど、情報をしっかり記録しておくことが重要であると感じた。
- 9チーム：このような訓練ができてよかった。避難者はもちろん、受け入れる側もパニックなので、まずは屋根のあるところに入れてあげることが大切だと思った。
- 10チーム：女性が授乳や着替えに使える部屋を1つ作り、インフルエンザの人を廊下のテントに隔離するなど、部屋割りを気にした。
- 11チーム：一人一人の要望を聞きながら振り分けができた。常日頃から、基準の作成やリーダーの選定などをしておくことが必要だと思った。

□ 分科会のまとめ

受付の重要性については、早急な名簿の作成が困難な場合もあるので、ある程度落ち着いてから紙を配って記入してもらう方法もあります。また、まちの外からの避難者もいますが、実際には顔見知りの地区の方が多いと思われます。その場合は、地区ごとに集まってもらい、リーダーは自治会長さんに頼むなどの対応もあります。

これ自体はゲームですが、気付いたことを具体的にまちのなかでどのように生かすかということが大切です。

■プログラム(3)まとめの会

朝岡 幸彦 氏(東京農工大学大学院農学研究院・教授)

朝岡)これから各分科会と、シンポジウム全体の振り返りを始めます。

今回は参加者が2つの分科会に分かれていますので、各分科会の様子を映した動画を見て、各コーディネーターより5分程度で報告をしていただき、情報を共有したいと思います。

(公園分科会動画)

山ノ内)第1分科会のテーマは「公園」ですが、協働がこれから生まれていく過程の上で一番大切にしたい「安心安全のコミュニケーションの場」を感じていただけるよう意識し、最初に緊張感をほぐすためのアイスブレイクを行ってから本題に入りました。

今回目的として掲げたのは、「自分たち市民のアイデアが、まちを面白くする力がある」ということを実感してもらうことです。「ワールドカフェ」では、4~5人ごとにテーブルに分かれて、ある「問い」について、20分程度話しました。その後、一人を残して別のテーブルに移動し、また「問い」について話すという流れを何度か繰り返します。テーブルを移動するたびに、他のテーブルでどのような話があったかを共有し、短時間で様々な人の意見を聞くことができます。

この手法を用いて、第1ラウンドはテーマを「みなさんにとって公園はどんなところですか?」「どんないいところがありますか?」として、自分たちが体験していることや感じていることなど、現状について話した上で、第2ラウンドでは「これをもっと良くするためには?」という、理想の話をしてテーマにしました。そして第3ラウンドでは、「現状を理想に近づけるために、どんな協力があればそれは達成できますか?」をテーマとして、協働の仕組みをワークの「問い」に組み込んで話をしました。そして最終的な振り返りとして、気付いたことや感想、「こんな公園だったらいいな、こんな公園にしたいな」という思いを模造紙にまとめました。たった2時間程度の時間でしたが、付せん94枚もの意見が出ました。最初に目的として掲げた「自分たちのアイデアがまちを面白くする力がある」ということを、実感していただけたのではないかと思います。参加者から



の意見としては、「活動している人たちだけがのめり込み、市民が引いて見ているのではなくて、使う側も管理する側も一緒に物事を考えていくことが大切ではないか」「公園を増やす意見はあるが、逆に減らすという

視点もあってもいいのではないか」「日本、そして府中の子どもが立派に育っていく公園が作りたい」など、本当に様々な視点から意見が出ました。

朝 岡) ありがとうございます。第2分科会の富沢さん、よろしくお願いします。

(防災分科会動画)

富 沢) 第2分科会では、最初に防災危機管理課から府中市の防災についてお話を伺い、ゲームをはじめました。避難所運営ゲームは、カードを人に見立てて、その場に最初に集まった人たちが避難してきた人たちを収容し、避難所を運営していくゲームです。進むペースはチームによって異なりましたが、ゆっくり進んだチームでも、様々なことを考えながら判断し、進めていました。ゲーム終了後は、チームごとに気付いたことを付せん書き、それぞれのチームの代表に発表していただきました。

これ自体はゲームですが、ゲームを通して、避難生活が始まるとこんなことが起きるとか、思いもかけない人たちが来るとか、様々な状況の人がいるとか、こんな出来事が起こるとか、疑似体験をすることができます。参加者の皆様はゲームそのものへの感想だけではなく、それを日常に置き換えて、「府中でこのようなことが起きたらどうすれば良いだろうか」「実際はゲームのように簡単にはいかない」「受付を作るのをすっかり忘れていた」「病気の人がいたらどうしたら良いか」「赤ちゃんにお乳をあげる場所はどうか確保しよう」など、色々なことを感じたと思います。

ゲームだけで終わらせずに、できれば、避難所マニュアルを作るだけではなく、何回か皆さんと一緒に地域でこのゲームを行い、いざというときに考えていくことができるようになればと思います。

朝 岡) ありがとうございます。それでは、私からいくつか話題を提起させていただき、コーディネーターの方とディスカッションしたいと思います。まずお聞きしたいのですが、今日参加して楽しかった人は手を挙げてください。

(挙 手)

朝 岡) ありがとうございます。冒頭の高野市長のご挨拶にありましたが、府中市では「市民協働」を積極的に進めようとしています。お二人に伺いたいのですが、「市民協働」について、どのようにお考えですか？

山ノ内) 私は今、杉並区で活動しているのですが、活動している人たち同士がもっと情報共有をし、人と人のレベルで繋がるのが協働なのではないかと思っています。具体的には、様々な地域団体や活動がありますが、まだそれぞれがそれぞれの好きなことをやっているレベルではないかと思います。まずは動ける人同士が繋がり、役割分担をして、やるべきところは一緒にやり、そうでないところは別々にやる、そういう動きの中で市民を巻き込み、広がっていくというのが私のイメージする協働です。

富 沢) まずは市民と行政との協働がありますが、その場合は市民と行政がパートナーシップの気持ちを持ってからでないと、下請けになってしまいます。安いからとか、ボランティアで簡単だからとういことではなく、パートナーだと思ってくれる行政が必要であると、高野市長は思っているのではないのでしょうか。口で言うだけではなく、態度でも示すことが重要です。

NPO団体はテーマ型ですが、自治会のような地縁型とうまくつながると、お互い足りないところを補い合うことができます。現在、西東京市はそれを進めようとしていて、自治会や地域に私たちのようなNPOが行き、HUGをやって繋がりを作り始めています。

朝 岡) ありがとうございます。私が非常に心に残っているのはやはり「まちづくり」とは、やりたい人が勝手にやっているというところが多少あるということです。しかしそのような人たちが楽しくやっていて、いつも仲間を迎え入れるような雰囲気を作っていくことによって、周りの人がどんどん巻き込まれていき、気が付くと市民みんながやってみたいと感ずることが、実は協働において大事な流れなのではないのでしょうか。

また、NPOは特定のミッションや目的をもっているのです、できることとできないことがあると言います。そのような意味で言うと、何でもみんなと協力しながらやる地縁型という側面が必要で、これも市民協働を考える上で大事な本質でしょう。

もう一つだけ申しあげたいことは、「市民協働」は行政と市民だけの協働ではなく、まちづくりの本質は「市民」と「市民」の協働がベースであり、市民が協働しやすいようなお手伝いや条件整備するのが「行政」の役割であるということです。そのような意味で言うと、市民も市役所のお手伝いするというより、自分たちがやりたいこと、あるいはやらなければいけないことを、自分たちの力でやるにはどうすれば良いか考えることが、「市民協働」の基本ではないかと思っています。

最初に「今日は楽しかったですか？」と聞き、みなさんに手を挙げていただきましたが、私はまちづくりには、住んでいると様々な課題があると思います。私は避難所運営ゲームをやってみたいと思いつながら「大変そうだな」と思ったのは、4分に1回イベントが起こり、みんなが無茶苦茶なことを言うことです。そのため、ゲームに参加している人たちは、最初はまったりやっているグループもありましたが、徐々に真剣になり、途中で激論になりそうなところもありました。無理難題と言えればそれまでですが、課題はまちに生活していれば必ず起こります。その課題をどのようにみんなの力で解決していけば良いのか、それがポイントなのです。

皆さんは今日、非常に短い時間と限られた手法ではありますが、疑似体験しました。この疑似体験というものが、とても楽しいのです。

私は教育学者なのですが、教育学者の立場から「市民協働」を進めるためのポイントを3つご説明したいと思います。

一つは、「習うより慣れろ」です。皆さんは今日、まちづくりの手法や課題について学んだのではなく、慣れただけなのです。これをみんなが繰り返し慣れていくという感覚が非常に重要で、そこからできるようになっていくのです。

二つ目は、「悩むなら動け」です。大抵、問題があると皆さんは悩みます。悩むことは大事なことです。悩んでいるだけでは解決しません。動かなければなりません。動いてみると色々な人とぶつかり合いますが、動けば必ず結果が出てくるので、気楽に動いてみてください。

三つ目は、ありふれた言い方ですが、「一人よりみんな」です。やはり一人でできることは限られているので、みんなでやればよいと思います。ただし、一つだけ誤解がないように申しあげると、一人よりみんなの“みんな”は、画一的であってははいけません。多様である必要があります。色々な考えや能力を持った人が集まり、時間を掛けて議論して動くから、多様な解決策が出てくるのです。そのため、一人よりみんな、できるだけ多様なみんなで力を合わせることで、まちづくりと市民協働のポイントだと思います。

最後に、コーディネーターのお二人に伺います。今日の分科会をやってみて、府中市の市民の皆さんは協働できますでしょうか。

富 沢) 十分できますね。皆さんゲームをしながら、とても真剣に議論されていて、一人一人に話を聞きたいぐらいです。あとでお時間がある方は、各チームごとの感想が会場に掲示されていますので、是非それを見てみてください。協働は十分できると思います。

山ノ内) 私が活動している杉並区で気を付けていることは、話すよりも聞くことに力を入れるということです。2:8ぐらいで聞いていると思いますが、まずは活動者のファンをいかに増やすかということが重要だと思います。テーマに吸い寄せられる人ももちろんいますが、それは先ほどの話にあった通り、画一的な人が集まってくる危険性があると思います。ただし、この人がやるから行ってみよう、と思われるように、私自身はすごく気を付けています。そう思われる為には、「自分はこんなことやっている、あんなことやっている」という話をするよりも、「皆さんはどんなことに興味があるの?」と聞き出しながら、「あなたは何やっているの?」と聞かれるまで、一生懸命聞きながら待つ、ということを中心掛けています。

朝 岡) ありがとうございます。皆さん、これからも「まちづくり」の練習をして、「まちづくり」に慣れていきましょう。ありがとうございました。

以上